
ご挨拶

2020年は、3月以降、大学全体が新型コロナの感染拡大により大きな影響を受けました。卒業式や入学式ができなかったことに加え、前期授業におけるオンデマンド化は教員・学生双方に大きな負担をかけることになりました。本学博物館においても、4月10日から5月31日に会期を予定していた「ベル・エポックからモダンへ」展が開催不可能となり、博物館自体も臨時休館となりました。

しかし後期には対面授業の再開などとともに、博物館も10月5日から11月21日にかけて、共立女子大学・共立女子短期大学社会連携センターの協賛を得て、独立行政法人国際交流基金との共催で、「日本の贈り物 心を形にして -日本における贈答の美-」を開催することができました。

大学が博物館を持つ意味は、もとより大学所属の学生の教育が第一ではありますが、公共機関として、また特に文化的機関としての社会的役割もまた非常に大きいと言えます。本学博物館もこうした社会的責任を果たすべく、この度、国際交流基金の海外における日本文化紹介の企画に、「学生が参画する社会連携事業」として協力することになりました。

具体的には、展覧会の海外での公開に先立ち本学博物館において先行公開し、展示具の使用法や作品展示の具体的な様子を画像に記録し、予定されている開催館（5か国、10会場以上）における展示の手本としました。博物館実習中の本学学生も本学博物館職員とともに、展示補助作業や記録作業を行い、社会連携事業にかかわりました。

ところで、本学博物館も今年度で開館4年目を迎えました。この間コレクション展、企画展を開催するのみならず、下記に紹介する特別展も開催できるようになりました。他館への作品貸与の機会も増え、社会的にも認知されるようになりました。そこで5年目に当たる来年2021年度を一つの区切りとみなして、開館5周年記念展を開催することといたしました。

その際、同じく2021年に延期された東京オリンピックが、新型コロナに打ち勝ったあかしとしての意味を含んで開催されるように、本学博物館においても、あえて今年開催中止になった「ベル・エポックからモダンへ」展を拡大バージョンアップして開催することとしました。

医療技術や環境が整っていなかった江戸時代以前においては、子どもが無事に成長することは現代のように容易ではなかったため、誕生直後に初宮参りでその後の成長を氏神に祈願したのち、3歳、5歳、7歳にチェックポイントをもうけ、それまでの加護を氏神に感謝し、その後の加護を祈ったのが、七五三詣です。2021年は子どもの成長に例えるならば、七五三の五才に当たる年です。現代では、5歳は幼児としては最後の年であり、児童としての新しい道のに乗り出す直前の年でもあります。博物館のさらなる発展を期す年として相応しい年であるといえるでしょう。

困難な新型コロナ感染下にはありますが、今後も本博物館が、教育のみならず様々な形で社会に貢献ができるよう、常に努力していきたいと考えています。

共立女子大学博物館長

長崎 巖

沿革

2015 年 4 月 1 日	博物館プロジェクト設置
2016 年 10 月 1 日	開館
2016 年 10 月 8 日	開館記念展開会式・特別内覧会
2017 年 7 月 31 日	博物館相当施設指定
2018 年 3 月	「共立女子大学博物館年報／紀要」刊行

2020

共立女子大学博物館年報 / 紀要

Kyoritsu Women's University Museum Annual Report & Bulletin

目 次 contents

年 報

1. 展示関連	4
2. 教育研究・利用支援	
1) 資料貸出	10
2) 特別利用	10
3) 団体利用	10
4) 博物館実習	11
3. 資料管理	
1) 資料調査	12
2) 資料修復	12
3) 環境調査	12
4. 運営・組織	
1) 博物館規程類	13
2) 組織・委員会	14
3) 施設概要	14
4) 利用案内	15

紀 要

・ 友禅染掛幅の歴史と存在意義 ― 共立女子大学博物館蔵「文読む美人図友禅染掛幅」を 手掛かりとして ―	19
長崎 巖（共立女子大学博物館長）	
・ 共立女子大学博物館蔵 ― 資料名「ドレス」のモチーフに関する一考察	31
小池 奏衣（共立女子大学博物館学芸員）	
・ 共立女子大学博物館収蔵品の修復報告 I ― 白木綿地立木草花模様更紗について ―	39
田中淑江、高橋由子	

1. 展示関連

1. 心を形にして ―日本における贈答の美―

<企画展>

開館期間：2020年10月5日（月）～11月21日（土） 32日間

前期「婚礼と贈答」：10月5日（月）～10月24日（土）

後期「人の絆と贈答」：11月2日（月）～11月21日（土）

入館者数：230名（学内 99名・学外 131名）

【概要】

本展は、日本における贈答儀礼を広義に捉え、贈られるものに見られる特徴や美しさ、多様性、贈答儀礼の背景にある日本人の思想を、服飾作品を中心とした作品で紹介しました。

なお、本展は（独）国際交流基金との共催によって行われ、会期終了後、本展は（独）国際交流基金の海外巡回展「日本の贈り物」展として2021年から世界各地に巡回する予定です。展示作業等には、学芸員資格課程を履修する本学学生も参加し、社会連携事業として取り組んだものとなります。

【関連事業】

・講演会

「贈る心を形にして―日本の贈答―」

講師：長崎 巖（共立女子大学博物館長）

日時：10月10日（土）14:00～15:30

参加者数：20名（事前予約制）



展示風景（前期）



講演会風景



ポスター作製者
木村優香
（家政学部 建築・デザイン学科デザインコース）

展示品目録
前期展示

資料名	時代	備考
萌黄縮緬地宝船模様袷紗	江戸時代後期・19世紀前半	
白綸子地讓葉注連縄模様袷紗	江戸時代後期・19世紀前半	
浅葱綸子地橘几帳模様袷紗	江戸時代後期・19世紀前半	
結納飾り	令和時代・21世紀	
黒地草花鳳凰模様蒔絵重箱	明治時代前期・19世紀後半	
薄茶地松鶴日輪模様錦袷紗	明治時代後期・20世紀	
鼠縮緬地蓑亀杯熨斗折り鶴模様袷紗	明治時代前期・19世紀後半	
白地鶴秋草模様繻珍打掛	昭和時代・20世紀後半	
白地鶴草木模様帯	昭和時代・20世紀後半	
「あつ満 こん礼」	明治29年(1896年)	周延作
黒漆夕顔(瓢箪)模様蒔絵盃台 朱漆松竹梅模様蒔絵三つ盃	明治時代・19世紀後半～20世紀前半	
花嫁かつら 文金高島田	令和時代・21世紀	
婚礼小物(懐剣・笄迫・扇・草履)	令和時代・21世紀	
白縮緬地梅樹模様振袖	明治時代後期・20世紀前半	
紅縮緬地竹模様振袖	明治時代後期・20世紀前半	
黒縮緬地松模様振袖	明治時代後期・20世紀前半	
白地扇散模様綾打掛	大正～昭和時代・20世紀前半	
紅縮緬地蓬萊模様打掛	大正～昭和時代・20世紀前半	
黒繻子地蓬萊模様打掛	大正～昭和時代・20世紀前半	
白綸子地蓬萊模様打掛	江戸時代中期・18世紀後半	
黒綸子地松梅鶴模様打掛	江戸時代中期・18世紀後半～19世紀前半	
白綸子地笹巻絹模様打掛	江戸時代中期・18世紀後半～19世紀前半	
紅綸子地若松鶴模様打掛	江戸時代中期・18世紀後半～19世紀前半	
縹縮緬地松鶴模様夜着	江戸時代後期・19世紀前半	
紺木綿地束熨斗模様夜着	明治時代前期～中期・19世紀	
紺木綿地束熨斗模様布団地	明治時代前期・19世紀後半	
鼠縮緬地花籠鶴置物模様袷紗	明治時代前期・19世紀後半	
浅葱縮緬地几帳牡丹桜宝尽模様袷紗	明治時代前期・19世紀後半	

資 料 名	時 代	備 考
紺襦子地二見ヶ浦模様袱紗	江戸時代後期・19世紀前半	
紺襦子地竹鯛模様袱紗	江戸時代後期・19世紀前半	
紺襦子地羊歯海老模様袱紗	江戸時代後期・19世紀前半	
紺襦子地寿老人模様袱紗	江戸時代後期・19世紀前半	
紺襦子地梅樹布袋唐子模様袱紗	江戸時代後期・19世紀前半	
紅縮緬地波碇千鳥模様袱紗	江戸時代後期・19世紀前半	
朱地梅樹若松笹模様重箱	明治2年（1869年）	
押絵熨斗 神功皇后	明治～大正時代・20世紀	
押絵熨斗 伊邪那美 伊邪那岐	明治～大正時代・20世紀	

後 期 展 示

資 料 名	時 代	備 考
鼠縮緬地菊模様一つ身	明治時代中期・19世紀後半	
染分け縮緬地菊蝶模様涎掛け	明治時代中期・19世紀後半	
染分け縮緬地草花模様帽子	明治時代中期・19世紀後半	
白縮緬地桐鳳凰模様帽子・涎掛け	大正時代・20世紀前半	
薄茶地鶺鴒模様錦帽子・涎掛け	大正時代・20世紀前半	
「五十三次の内蒲原」	万延元年（1860）	豊国三代作
黒麻地大友紋付半纏	大正～昭和時代・20世紀前半	
紺木綿地三引き紋付半纏	大正～昭和時代・20世紀前半	
紺木綿地藤模様半纏	大正～昭和時代・20世紀前半	
縹木綿地波鯉千鳥扇模様万祝	大正～昭和時代・20世紀前半	
紺木綿地宝船模様万祝	明治～大正時代・20世紀前半	
紺木綿地三番叟模様万祝	大正～昭和時代・20世紀前半	
「芝居絵 市川海老蔵、尾上菊五郎」	文化・天保期（1815～1842）	国貞初代作
「水木辰世・実は猫石怪」	文久元年（1861）	豊国三代作
「芝居絵 鬼ヶ嶽 秋津島」	文政・嘉永期（1822～1853）	重春作
「芸尽磨腕前」	元治元年（1864）	梅恵作
白木綿地三つ筋模様浴衣	令和時代・21世紀	
白木綿地菊五格子模様浴衣	令和時代・21世紀	
白木綿地芝翫模様浴衣	令和時代・21世紀	

資 料 名	時 代	備 考
白木綿地彦三郎模様浴衣	令和時代・21 世紀	
「文明開化」	明治 7 年 (1874)	豊国四代作
「役者絵 沢村田之助 火消」	万延元年 (1860)	芳艶作
「役者絵 火消」	万延元年 (1860)	豊国三代作
茶地久保紋付革羽織	明治時代前期～中期・19 世紀後半	
黒地遑鷹羽紋付革羽織	江戸～明治時代・19 世紀後半	
鼠木綿地人物模様火消袴纏	江戸～明治時代・19 世紀後半	
紺地釘抜き模様火消し半纏	江戸時代後期・19 世紀前半	
金小札童胴	江戸時代初期・16 世紀末～17 世紀前半	
黒木綿地狸々模様子ども用半纏	明治時代中期・19 世紀後半	
赤茶木綿地桜檜扇模様子ども用袖なし	明治時代中期・19 世紀後半	
黒木綿地桐鳳凰煉瓦模様子ども用半纏	大正時代・20 世紀前半	
鼠綾地松鷹模様一つ身	明治時代中期・19 世紀後半	
縹平絹地菊繋ぎ丸紋繋ぎ模様一つ身	明治時代中期・19 世紀後半	
雛飾り	令和時代・21 世紀	
「見立て曾我子ども遊の図」	明治 22 年 (1889)	周延作
「美人十二カ月其七 海水浴」	明治 31 年 (1898)	春汀作
鼠木綿地梅樹御所車檜扇冠模様一つ身	明治時代中期・19 世紀後半	
橙綾地一つ身背守り付き	明治時代中期・19 世紀後半	
薄鼠麻地鶴器物模様一つ身	明治時代中期・19 世紀後半	
桃色平絹地梅樹若松笹鶴亀模様一つ身	明治時代中期・19 世紀後半	
染分け平絹地四季草木模様一つ身	明治時代中期・19 世紀後半～20 世紀前半	
鼠平絹地梅樹若松笹鶴亀模様一つ身	明治時代中期・19 世紀後半	
縮緬地大黒模様迷子札	明治時代後期・20 世紀前半	
縮緬地兎模様迷子札	明治時代後期・20 世紀前半	
縮緬地唐子模様迷子札	明治時代後期・20 世紀前半	
紅縮緬地宝尽模様繻珍守り袋	江戸時代後期・19 世紀前半	
紅地菊唐草模様繻珍守り袋	江戸時代後期・19 世紀前半	
白綾地宝尽模様繻珍守り袋	江戸時代後期・19 世紀前半	
浅葱紹縮緬地糸菊模様四つ身・帽子	明治時代後期・20 世紀前半	

本展出品作品は、すべて（独）国際交流基金所蔵品。

2. レース 糸の宝石

<企画展>

2021年1月12日（火）～2月20日（土） 28日間 入館者数：200名（学外者：143・学内者：57）

【概要】

16世紀以降のヨーロッパにおいて、レースは「糸の宝石」と呼ばれていました。機械のない時代のレースは、全て手作業で製作され、袖一枚を製作するのに要した時間は、およそ一年であったと言われています。この希少性こそが、レースが「糸の宝石」と呼ばれた所以です。一方、日本においても、レースの製作は明治時代より行われ、共立女子職業学校および共立女子専門学校でも、「レース実習」という授業で生徒たちに教授されていました。本展覧会では、ヨーロッパで制作されたレース資料と共立女子職業学校および共立女子専門学校で制作されたレース作品を通して、技術の伝播の姿を紹介いたしました。

【関連事業】

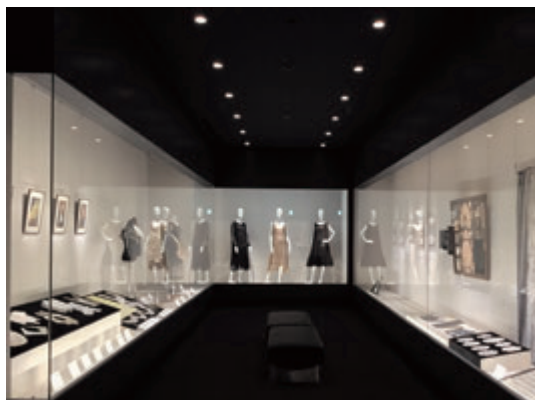
- ・講演会（オンデマンド開催）

「新しい手芸 明治時代のレース手芸と共立女子職業学校」

講師：中川 麻子 氏（大妻女子大学准教授）

配信期間：2月13日（土）14：00～2月20日（土）13：00

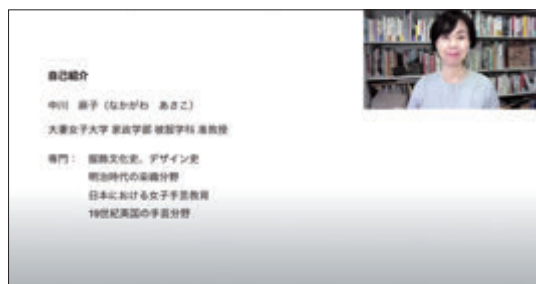
参加者：80名



展示風景



ポスター作製者
大竹冨佳
(家政学部 建築・デザイン学科デザインコース)



講演会動画より

展 示 品 目 録

資 料 名	時 代	備 考
襟	19 世紀	
「シャルル・レイとロベール・ド・パヴィエール」	1645 年頃	参考画像
「ヴィレム・ヴァン・ルーンとマルガレータ・パスの結婚」	1637 年	参考画像
テープ（マルタ・レース）	19 世紀	
扇	1880 年代	
扇	1870 年代	
襟	19 世紀末～20 世紀初頭	
襟	19 世紀末～20 世紀初頭	
襟	19 世紀末～20 世紀初頭か	
襟（テネリフ・レース）	制作年代不明	
袖	19 世紀半ば	
袖	19 世紀半ば	
胸飾り	20 世紀初頭	
「女性の肖像」	1619 年	参考画像
「エグュイール元帥夫人，マリ・ヴィニョン」	1600～20 年	参考画像
「8 歳のイザベル・ド・パルム」（部分）	1749 年	参考画像
「キジ家の一人の肖像画」	1670 年	参考画像
「子どもたちに囲まれたオルレアン公爵夫人」（部分）	1680 年	参考画像
『Journai des dame se et des Damaiseilles』	1856～1857 年	
襟	19 世紀末ごろか	
襟	制作年代不明	
襟	制作年代不明	
襟	19 世紀末～20 世紀初頭	
襟（マルタ・レース）	19 世紀後半	
襟	制作年代不明	
襟	19 世紀末～20 世紀初頭	
ブラウス	19 世紀末～20 世紀初頭	
フィッシュ	19 世紀半ば	
ボディス	19 世紀後半	
フィッシュ	19 世紀半ば	
ボディス	19 世紀末～20 世紀初頭	ジャンヌ・バキャン
ドレス	1910 年代後半	
ドレス	1920 年代半ば	
デイドレス	1920 年代半ば	
イヴニングドレス	1920 年代半ば	
デイドレス	1950 年代	クリストル・バレンシアガ
「散策服」	1853 年	参考資料
「避暑地での衣装」	1887 年	参考資料
「ディナードレスとイヴニングドレス」	1851 年	参考資料
「ディナードレスと外出服」	1865 年	参考資料
「イヴニングドレスとコート」	1863 年	参考資料
額面「編物各種」	大正～昭和時代初期・20 世紀	
授業風景	大正時代・20 世紀	参考画像
「あみもの」（後編）	昭和 3 年（1928）	参考画像
授業風景	昭和 4 年（1929）	参考画像
皿敷き	大正～昭和時代初期・20 世紀	
壁掛け	大正～昭和時代初期・20 世紀	
テーブルクロス	大正～昭和時代初期・20 世紀	

参考画像、参考資料以外すべて当館所蔵品。

2. 教育研究・利用支援

1) 資料貸出

資料名・点数	貸出先	貸出期間	展示名
衣桁 5脚	永青文庫	2020/6/15 ~ 9/18	「翁一大名細川家の能の世界」
紺呉呂服連地隅切笹紋付陣羽織他 計2点	東京家政大学博物館	2020/10/1 ~ 11/30	「きものと色—藍と紅花を中心に—」
黒麻地紅葉額岩模様帷子他 計2点	ヴィクトリア&アルバート美術館	2020/1/21 ~ 11/27	「Kimono:Kyoto to Catwalk」(会期順延)

2) 特別利用

申請者	利用内容	利用期間	目的
東京家政大学博物館	画像利用	2020/4/1 ~ 6/30	企画展「ふしめの儀式」にてパネル展示のため
公益財団法人三徳庵	画像利用	2020/6/15 ~ 7/25	『茶道の研究』掲載のため
東京家政大学博物館	画像利用	2020/7/10 ~ 11/19	特別企画展「着物と色—藍と紅花を中心に—」にて、広報物、パネル、WEBの掲載(パワーポイント)のため
家政学部 田中淑江	その他	2020/8/27 ~ 12/19	白木綿地立本草花模様更紗の修復作業のため
マガジンハウス	画像利用	2020/9/14 ~ 2020/11/9	雑誌『POPEYE』2020年10月号に掲載のため
家政学部被服学科	画像利用	2020/12/10 ~ 2021/1/31	2022年度入学試験用被服学科サブパンフレットに使用
家政学部被服学科	画像利用	2020/12/20 ~ 2021/1/31	共立女子大学・短期大学オフィシャルガイド2022に使用
中日新聞社東京本社(東京新聞)	画像利用	2021/1/15 ~ 3/31	大聖寺所蔵大礼服修復プロジェクトを紹介する企画「よみがえる明治のドレス」に掲載のため
ハースト婦人画報社	画像利用	2021/2/20 ~ 5/19	雑誌「美しいキモノ」2021年春号の企画「幸せを祈る衣裳」の資料画像として
ハースト婦人画報社	画像利用	2021/1/13 ~ 2/20	企画展「レース—糸の宝石—」広報のため
共立女子大学・短期大学桜友会	画像利用	2021/1/25 ~ 2/26	同窓会誌「桜の友」第69号の表紙などに使用

3) 団体利用(授業利用のみ受け付け)

団体名	見学日	人数
染織品保存修復実習	2020/10/14	15

4) 博物館実習

実習人数 24名（家政学部：7名・文芸学部：12名・国際学部：2名・科目等履修生：2名）

実習日程 5日間※

(9/28～30・10/5～7・10/12～15・10/26～28・11/4～6・11/16～18・11/23～25)

実施場所 神田一ツ橋キャンパス

グループ数 7グループ

※本年の館園実習は、感染症対策のため一ツ橋キャンパスのみで3日間実施し、
八王子キャンパスでの実施は見送った。5日間の内、2日間分は課題で対応した。

実習内容一例

【神田一ツ橋キャンパス】

第一日目	午前	オリエンテーション・施設・設備についての実習 館の概要説明 施設・設備の見学と課題の検討 (利用者動線、バックヤード、空調、セキュリティなど)
	午後	展示に関する実習 広報について（施設及び展覧会の広報に係る）、博物館資料の情報管理について
第二日目	午前	管理業務に関する実習 博物館資料の管理について（保存方法・環境管理・文化財防災などについて）
	午後	展示に関する実習 教育普及活動について（教育普及プログラムの検討）
第三日目	午前	管理業務に関する実習① 博物館資料の取り扱い実習
	午後	管理業務に関する実習② 博物館資料の取り扱い実習

【提出課題】

第四日目	課題	実習講義等の中から印象的だった内容を取り上げ2000字程度のレポートを執筆する。
第五日目	課題	実習を終えて自身の好きな美術館・博物館を改めて観察し、気づいたことをパワーポイント・スライド5枚程度にまとめる。

3. 資料管理

1) 資料調査

対象資料：レース作品 77 点

調査期間：2020 年 10 月 8 日、15 日

依頼者：菅野ももこ氏（文化学園大学服飾博物館・学芸員）

2) 資料修復

・「白木綿地立木模様更紗」の修復

修復資料：白木綿地立木模様更紗

修復期間：2020/8/19 ～ 9/23

修復業者：田中淑江氏（共立女子大学家政学部教授）

高橋由子氏（共立女子大学家政学部助手）

大野慈枝氏（染織品修復家）

中川はるか氏（染織品修復家）

・三菱財団 50 周年記念特別助成第 1 回 (2019 年度) 文化財修復事業助成（完了）

修復資料：蒔絵化粧道具（遠鷹羽紋散松橘蒔絵調度）のうち手拭掛の保存修復

修復期間：2019 年 10 月～ 2020 年 9 月

修復業者：松本達弥氏

3) 環境調査

調査対象：神田一ツ橋キャンパス 2 号館博物館

八王子キャンパス 10 号館保管庫

調査期間：前期) 2020 年 6 月 12 日（金）～ 7 月 17 日（金）36 日間

後期) 2020 年 11 月 19 日（木）～ 12 月 16 日（水）28 日間

調査内容：浮遊菌・付着菌・浮遊塵埃調査

歩行性・飛翔性用バグトラップ設置及び調査

調査業者：東化研株式会社

4. 運営・組織

1) 博物館規程類

共立女子大学博物館規程

(趣旨)

第1条 この規程は、共立女子大学学則第55条により設置された共立女子大学学則第55条により設置された共立女子大学博物館（以下「博物館」という。）に関する基本事項を定める。

(目的)

第2条 博物館は、本学における教育研究等の使命を達成するため、必要な学術資料および関連資料（以下「資料」という。）の収集、管理、展示等を行い、教職員、学生およびその他一般の利用に供することを目的とする。

(事業)

第3条 博物館は、その目的を達成するため次の事業を行う。

- (1) 資料の収集、管理および調査研究
- (2) 展覧会、講演会等の開催
- (3) 学内外の教育研究および利用に関する支援
- (4) 出版広報活動
- (5) その他博物館の目的達成のために必要な事業

(館長)

第4条 博物館に館長を置く。
2 館長は、教授のうちから学長が推薦し、理事長が任命する。
3 館長は、館務を掌理する。
4 館長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、任期中に退任した場合の後任者の任期は、その残任期間とする。

(運営委員会)

第5条 博物館運営の基本事項に関して館長の諮問に応じるため、博物館運営委員会を置く。
2 博物館運営委員会の規程は、別に定める。

(職員)

第6条 博物館に職員を置く。
2 職員のうち1名は、学芸員資格とそれに基づく実務経験を有する者とする。
3 職員について必要な事項は、共立女子学園事務局事務規程をもって別に定める。

(雑則)

第7条 この規程に定めるもののほか、博物館の運営に必要な事項については別に定める。

(改廃)

第8条 この規程の改廃は、館長の提議により理事会の承認を得るものとする。

付則

この規程は、2020年4月1日より施行し、従前の「共立女子大学博物館規程」は、2020年3月31日をもって廃止する。

共立女子大学博物館運営委員会規程

(目的)

第1条 この規程は、共立女子大学博物館規程の第5条第2項に基づき、共立女子大学博物館運営委員会（以下「委員会」という。）に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

(組織)

第2条 委員会は、次の運営委員（以下「委員」という。）をもって組織する。

- (1) 館長
 - (2) 学部・科より推薦された専任の教員 各1名
 - (3) 館長が必要に応じて推薦した専任の教員 2名以内
 - (4) 教育学術推進課長
- 2 委員は、学長が任命する。

(任期)

第3条 委員の任期は、2年とし再任を妨げない。ただし、委員の欠員により補充された委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、館長をもって充てる。
2 委員長は、委員会を招集し、議長となる。
3 委員長は、必要に応じ、委員以外の者に会議への出席を求めることができる。

(会議)

第5条 委員会は、原則として年2回以上開催するものとする。
2 委員会は、委員の過半数の出席により成立する。

(議事の報告)

第6条 委員長は、協議された事項について学長に報告する。

(事務)

第7条 委員会の事務は、教育学術推進課が行う。

(改廃)

第8条 この規程の改廃は、館長の提議により、常務理事会の承認を得るものとする。

附則

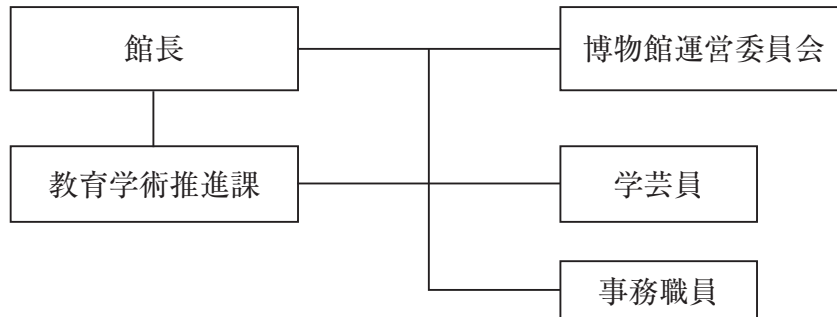
この規程は、平成28年4月1日から施行する。

附則

この規程は、2020(令和2)年9月1日から施行する。

2) 組織・委員会

【組織図】



【博物館運営委員会】（任期 2 年：2020 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日）

委 員

委員長	博物館長	長崎 巖
委員	家政学部	田中 淑江
委員	文芸学部	池上 公平
委員	国際学部	木戸 雅子
委員	看護学部	山住 康恵
委員	ビジネス学部	飯島 聡太郎
委員	生活科学科	山口 庸子
委員	文科	C.A. ピッツ
委員	教育学術推進課	田中 俊介

活動記録

第 1 回 開催日：2020 年 6 月 23 日（火） ※オンライン開催

第 2 回 開催日：2021 年 3 月 17 日（水） ※オンライン開催

3) 施設概要

神田一ツ橋キャンパス

展示室	79㎡
収蔵庫（前室を含む）	71㎡
事務室	43㎡

八王子キャンパス

保管室（第一・第二）	190㎡
------------	------

4) 利用案内

開館時間：月～金曜日 10：00～17：00、土曜日：10：00～13：00

休館日：日曜日・国民の祝日、大学が定める休日、展示入替期間

入館料：無料（2号館1F受付でお申し込みください。）

アクセス：東京メトロ半蔵門線・都営地下鉄三田線・新宿線「神保町」駅 A8 出口徒歩1分

東京メトロ東西線「竹橋」駅下車 1b 出口徒歩3分

※駐車場はございませんので公共交通機関をご利用ください。

所在地：〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋 2-6-1 共立女子学園 2号館 B1F

問合せ先：Tel：03-3237-2665

Fax：03-3237-2633

mail：muse.gr@kyoritsu-wu.ac.jp

ウェブサイト <http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/muse/>

